

多角的アプローチがすすむ天文教育 6 和歌山大と地域公開天文台の連携

Diversified approach in astronomical education 6. Collaboration between Wakayama University and local public observatories

富田 晃彦[1], 尾久土 正己[2], 矢治 健太郎[3], 曾我 真人[4]

Akihiko Tomita[1], Masami Okyudo[2], Kentaro Yaji[3], Masato Soga[4]

[1] 和歌山大・教育, [2] みさと天文台, [3] かわべ天文公園, [4] 和大・システム工・デザイン情報

[1] Education, Wakayama Univ, [2] Misato Observatory, [3] Kawabe Cosmic Park, [4] Info Design, Sys. Eng., Wakayama Univ.

<http://www.center.wakayama-u.ac.jp/~atomita/>

天文教育を軸に、和歌山大学と和歌山県の公開天文台が深く連携している。ここではその連携を活用した天文教育の展開を紹介していきたい。和歌山大学では、教育学部の天文学ゼミ、システム工学部のリモート望遠鏡開発の曾我研究室が天文教育に関係している。和歌山県は、公開天文台が大変充実している、全国でも有数の県である。口径 1 m 以上の望遠鏡を備えるみさと天文台、かわべ天文公園を始め、生石高原天文台などがある。和歌山こども科学館の天文分野の方も含め、和歌山県の公開天文台・科学館の天文関係者全てと、和歌山大学の天文教育関係者は月例勉強会「わかてん」を持ち、すでに 60 回を数えている。

ここでの連携を基に、大学での各種実習授業を天文台・科学館と共同で行なったり、また天文台・科学館での展示物や各種教材の開発を共同で行なってきた。リモート望遠鏡は曾我研究室で精力的に開発されており、みさと天文台とも共同で実験を行なっている。成果は国内外で高い評価を得ている。高速ネットワークを用いた、天文現象の動画配信、遠隔授業の研究でも「わかてん」メンバーが積極的に動いている。その際、和歌山大学の諸センターと合同で、通信の技術の研究、教育効果の研究を行なっている。全国に展開している公開天文台ネットワークの活動や、その他の科学教育の全国的運動でも、「わかてん」グループは共同研究を分担している。さらに岡山で計画されている新天文台計画で、大学教育も含めた教育目的を強く打ち出した望遠鏡計画の策定に力を出している。これらの教育・研究活動では、大学や天文台の職員だけでなく、学生（特に教員養成系の学生）が積極的に関与している。地域の公開天文台が、まさに大学教育のための天文台としても機能している。

天文教育、もっと広く自然科学教育という大きな課題を、学生と一緒に地域に根ざした実践として行なうことができている。その基盤が「わかてん」という、大学と地域の科学館・天文台との連合体である。